



## 診断の設定

- [Cisco UCS Manager 診断の概要 \(1 ページ\)](#)
- [診断ポリシーの作成 \(2 ページ\)](#)
- [ブレード サーバでの診断テスト \(3 ページ\)](#)
- [ラック サーバでの診断テスト \(3 ページ\)](#)
- [すべてのサーバでの診断テストの開始 \(4 ページ\)](#)
- [すべてのサーバでの診断テストの停止 \(5 ページ\)](#)
- [サーバ診断のステータス/結果の表示 \(5 ページ\)](#)
- [診断のトラブルシューティング \(7 ページ\)](#)

## Cisco UCS Manager 診断の概要

Cisco UCS Manager 診断ツールでは、サーバーのハードウェア コンポーネントの状態を検証できます。診断ツールには各種テストが用意されており、サーバーのさまざまなハードウェアサブシステム（メモリやCPUなど）に対して、負荷を与えたりすることができます。ハードウェアコンポーネントを修復するか、交換した後のサーバーの状態の健全性チェックを実行するためのツールを使用できます。このツールは、実稼働環境に新しいサーバーを導入する前に、包括的なバーンインテストを実行するときにも使用できます。

新しいシステムの場合、`org` スコープでデフォルトの診断ポリシーが作成されます。このデフォルトのポリシーは `default` という名前であり、削除できません。ユーザーがこのポリシーを削除しようとするエラーメッセージが表示されます。デフォルトの診断ポリシーは、すべてのサーバーで同じテストセットを実行する際に推奨される方法です。デフォルトポリシーを含むすべての診断ポリシーはカスタマイズ可能です。

デフォルトポリシーには1つのメモリテストだけが含まれています。メモリテストのデフォルトのパラメータは変更できます。また、デフォルト診断ポリシー内のメモリテストは削除できます。メモリテストがない場合、診断ポリシーは実行されません。

## 診断ポリシーの作成

### 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限が必要です。

### 手順

**ステップ 1** [Servers] > [Policies] > [Diagnostics Policies] を選択します。

**ステップ 2** [Add] をクリックします。

**ステップ 3** 次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前 (Name)	診断ポリシーの名前。文字数制限は16文字です。
Description	診断ポリシーの説明。これは任意です。

**ステップ 4** [Next] をクリックします。

**ステップ 5** [Add] をクリックします。

**ステップ 6** 次のフィールドに入力します。

名前	説明
注文	テストの実行順序。
[CPU Filter]	CPU フィルタをすべての CPU または指定した CPU に設定します。
[Loop Count]	ループカウントを指定された反復回数に設定します。値の範囲は1 ~ -1000 です。
[Memory Chunk Size]	メモリ チャンクを 5mb-chunk または big-chunk に設定します。
Memory Size	メモリ サイズを特定の値に設定します。
Pattern	メモリ テストを butterfly、killer、prbs、prbs-addr、または prbs-killer に設定します。

**ステップ 7** [OK] をクリックします。

**ステップ 8** [終了] をクリックします。

# ブレードサーバでの診断テスト

## ブレードサーバでの診断テストの開始

### 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限が必要です。

### 手順

---

**ステップ 1** [Equipment] > [Chassis] > [Server] を選択します。

**ステップ 2** 診断テストを開始するサーバを選択します。

**ステップ 3** [Diagnostics] タブをクリックします。

**ステップ 4** [Start] をクリックします。診断テストが開始されると、ボタンはグレー表示になります。

---

## ブレードサーバでの診断テストの停止

### 手順

---

**ステップ 1** [Equipment] > [Chassis] > [Server] を選択します。

**ステップ 2** 診断テストを停止するサーバを選択します。

**ステップ 3** [Diagnostics] タブをクリックします。

**ステップ 4** [Stop] をクリックします。診断テストが停止すると、ボタンはグレー表示になります。

---

# ラックサーバでの診断テスト

## ラックサーバでの診断テストの開始

診断テストは C220 M5、C240 M5、C220 M6、C240 M6、および C480 M5/C480 M5 ML ラックサーバで使用可能です。

### 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限が必要です。

## 手順

- 
- ステップ1 **[Equipment]** > **[Rack Mounts]** > **[Server]** に移動します。
  - ステップ2 診断テストを開始するサーバを選択します。
  - ステップ3 **[Diagnostics]** タブをクリックします。
  - ステップ4 **[Start]** をクリックします。診断テストが開始されると、ボタンはグレー表示になります。
- 

## ラックサーバでの診断テストの停止

## 手順

- 
- ステップ1 **[Equipment]** > **[Rack Mounts]** > **[Server]** に移動します。
  - ステップ2 診断テストを停止するサーバを選択します。
  - ステップ3 **[Diagnostics]** タブをクリックします。
  - ステップ4 **[Stop]** をクリックします。診断テストが停止すると、ボタンはグレー表示になります。
- 

## すべてのサーバでの診断テストの開始




---

(注) すべてのサーバの診断テストを開始すると、個々のサーバがリブートされます。

---

## 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限が必要です。

## 手順

- 
- ステップ1 **[Equipment]** > **[Diagnostics]** を選択します。
  - ステップ2 **[Start]** をクリックします。診断テストが開始されると、リンクはグレー表示になります。  
**[Diagnostic Result]** テーブルで、次の情報を確認できます。

フィールド	説明
名前 (Name)	システム定義のサーバ名。

<b>Chassis ID</b>	シャーシの固有識別情報。この数字の識別情報は、システム内のこのシャーシの場所に基づいて割り当てられます。  (注) ラックサーバには適用されません。
<b>PID</b>	サーバモデル PID。
<b>[Overall Progress Percentage]</b>	サーバでの診断テストの全体的な進捗割合の説明。
<b>Operation Status</b>	サーバの診断操作ステータスの説明。

(注) サーバが診断テストを実行できない場合は、サーバリンクをクリックし、[Diagnostics] タブでエラーの説明を確認してください。また、[Faults] タブで生成されたエラーを確認することもできます。

## すべてのサーバでの診断テストの停止

### 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限が必要です。

### 手順

**ステップ 1** [Equipment] > [Diagnostics] を選択します。

**ステップ 2** [Stop] をクリックします。診断テストが停止すると、リンクはグレー表示になります。

## サーバ診断のステータス/結果の表示

### 始める前に

CLI から個々のサーバに対して診断テストを実行し、このページでステータスを確認できます。

## 手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2** [Equipment] > [Chassis] > [Servers] の順に展開します。  
または、ラック サーバの場合は、[Equipment] > [Rack Mounts] > [Server] の順に展開します。
- ステップ 3** 診断ステータスを確認するサーバを選択し、[Diagnostics] タブをクリックします。  
以下の情報を確認できます。

名前	説明
[Diagnostic Policies]	ユーザが診断ポリシーを選択して特定のサーバに適用できるようにします。
[Start]/[Stop]	ユーザが特定のサーバに対する診断テストを開始または停止できるようにします。
[Operation State]	サーバの診断操作ステータス。有効な値は [Idle]、[In-Progress]、[Completed]、[Failed]、[Cancelled] です。
[FSM Status Descr]	サーバの診断操作での現行タスクの簡単な説明。
[FSM Progress]	サーバで実行中の診断操作の全体的な進行状況。
[Test Overall Progress]	診断テストの全体的な進行状況。
[Error Description]	診断操作から返されるエラーの説明。

表 1: 診断結果

名前	説明
[ID]	テストに関連付けられている固有識別情報
[Test Type]	診断テストのタイプ。
[Status]	テスト実行のステータス。値は [Idle]、[In Progress]、[Completed]、[Failed] です。
Description	診断テスト実行の説明。テストが完了すると、結果の詳細な説明が表示されます。
結果	診断テストの結果。値は [Pass]、[Fail]、または [NA] です。
[Progress Percentage]	診断テストの進捗状況の割合。

## 診断のトラブルシューティング

問題	デバッグ手順
BIOS が不 良 DIMM を検 出す る と、 その DIMM は無 効に な り、 診断 操作 では 認識 され ませ ん。	診断操作の結果の他に、メモリ関連のエラーを参照してください。

<p>DIMM ブ ラッ クリ スト 機能 が有 効で あ り、 DIMM がブ ラッ クリ スト に追 加さ れる と、 その DIMM は診 断操 作で は認 識さ れま せ ん。</p>	<p>診断操作の結果の他に、メモリ関連のエラーを参照してください。</p>
--	---------------------------------------

サーバーに不良DIMMがあり、これが原因でサーバーが起動できない場合、診断操作が正常に実行されない可能性があります。

該当なし

修正 でき ない エ ラー が原 因で サー バー リ ブ ートが 行わ れる 場 合、 診断 操作 が失 敗す る可 能性 があ りま す。	該当なし
---	------

メモ リエ ラー が原 因で 診断 操作 が停 止す る場 合、 診断 操作 エ ラー が発 生す る可 能性 があ りま す。	該当なし
---	------

	このエラーは外部イベントによってトリガーされます。診断操作をやり直します。
--	---------------------------------------

診断操作は、管理型エンドポイントのフェールオーバーやクリティカルなUCSMプロセスの再起動などの外部イベントにより中断することがあります。このような状況では、診断操作が取り消さ

れ、メモリテストが失敗としてマークされます。	
メモリテストが失敗してエラーが発生します。修正できないエラーが検出されます。	<p>[Chassis/Server/Faults] タブで、サーバー エラーを確認します。</p> <p>[Chassis/Server/SEL Logs] タブで、SEL ログを調べて DIMM エラーを確認します。</p>
メモリテストエラーをさらに分析する必要があります。	<p>プライマリ FI の /workspace パーティションにある次のログ ファイル アーカイブで、診断操作のログを確認します：</p> <p>diagnostics/diag_log_&lt;system-name&gt;_&lt;timestamp&gt;_&lt;chassis-id&gt;_&lt;blade-id&gt;.tgz</p> <p>前述のログ ファイル アーカイブ内で分析ファイル tmp/ServerDiags/MemoryPmem2.&lt;id&gt;/MemoryPmem2.analysis を参照します。</p> <p>次のコマンドを使用して、分析ファイルで診断ログを見つけます。</p> <pre># for file in `ls /workspace/diagnostics/*diag*`; do tar -tzvf \$file   grep analysis &amp;&amp; echo "IN " \$file; done</pre>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。